

みずほマーケット・トピック(2022 年 1 月 14 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週半ばから後半にかけて下落した。週初10日、115.60円付近でオープンしたドル/円は東京休場の中、アジア時間に一時週高値の115.85円まで上値を伸ばすも、その後は先週末の米雇用統計後のドル売りの流れが再開、欧米株の大幅下落を受けて115円付近まで値を下げた。11日、115円台前半で揉み合いだったドル/円はFRB関係者の相次ぐタカ派的な発言に115円台後半まで上昇。海外時間ではパウエルFRB議長の公聴会の内容が事前予想ほどタカ派的ではなかったことでドル売りが加速、再び115円台前半まで下落した。12日、ドル/円は米国時間に米12月CPIの発表を控え115.30円を挟んだ小動き。米12月CPIの結果は約39年ぶりの高水準の結果を記録しつつも、市場予想の想定範囲内に留まったことで米長期金利が低下、ドル/円も114円台前半まで急落した。13日、114円台半ば付近で小動きだったドル/円は海外時間に入ると市場予想を下回った米12月生産者物価指数や米長期金利低下を受けて一時週安値の114円ちょうどを付けた。本日のドル/円も前日の安値付近での取引が継続している。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて上昇、堅調な推移となった。週初10日、1.1355 付近でオープンしたユーロ/ドルは東京休場の中、オープン直後に上値を伸ばすも、米金利上昇や欧州株式市場の軟調推移を背景に一時週安値の 1.1285 まで急落。その後は 1.13 台前半まで値を戻した。11日、ユーロ/ドルは1.13 台前半で下落する場面も見られたが、海外時間に入り先述のパウエル FRB 議長の証言が材料視され米金利が低下、ドル売りが優勢となり、1.13 台後半まで反発した。12日、ユーロ/ドルは 1.13 台半ば付近で狭いレンジでの揉み合いだったが、米12月CPI発表後の米長期金利急低下にドル売りが強まり、1.14 台半ばまで急騰。13日、ユーロ/ドルは米経済指標の冴えない結果や米長期金利低下に伴うドル売りから週高値の 1.1482 まで上昇、その後も高値圏を維持した。本日のユーロ/ドルもその水準での取引が継続している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週				
		1/7(Fri)	1/10(Mon)	1/11(Tue)	1/12(Wed)	1/13(Thu)	
ドル/円	東京9:00	115.88	115.62	115.28	115.35	114.68	
	High	116.05	115.85	115.68	115.50	114.70	
	Low	115.52	115.05	115.12	114.38	114.00	
	NY 17:00	115.52	115.21	115.30	114.63	114.17	
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1296	1.1354	1.1330	1.1367	1.1440	
	High	1.1364	1.1360	1.1375	1.1453	1.1482	
	Low	1.1290	1.1285	1.1313	1.1355	1.1436	
	NY 17:00	1.1362	1.1330	1.1369	1.1441	1.1454	
ユーロ/円	東京9:00	130.99	131.29	130.57	131.16	131.20	
	High	131.34	131.31	131.18	131.46	131.42	
	Low	130.84	130.17	130.51	130.96	130.63	
	NY 17:00	131.30	130.56	131.07	131.17	130.73	
日経平均株価		28,478.56	-	28,222.48	28,765.66	28,489.13	
TOPIX		1,995.68	-	1,986.82	2,019.36	2,005.58	
NYダウ工業株30種平均		36,231.66	36,068.87	36,252.02	36,290.32	36,113.62	
NASDAQ		14,935.90	14,942.83	15,153.45	15,188.39	14,806.81	
日本10年債		0.13%	-	0.15%	0.12%	0.13%	
米国10年債		1.76%	1.75%	1.75%	1.75%	1.70%	
原油価格(WTI)		78.90	78.23	81.22	82.64	82.12	
金(NY)		1,797.40	1,798.80	1,818.50	1,827.30	1,821.40	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、今晚 14 日(金)に 1 月シシガン大学消費者マインド(速報)が発表される。12 月の結果は 70.6 と約 10 年ぶりの低水準を記録した 11 月の 67.4 から改善した。とは言え、米国では 12 月以降オミクロン株が急速に拡大している他、今週発表された 12 月消費者物価指数が約 39 年ぶりの上昇幅を記録するなどといった要素が消費者心理へ波及することが懸念される。12 月時点での 1 年先のインフレ期待は 4.8%と高止まりは続くが供給制約解消の兆しも見られず、大きく見通しが変わるとは考えにくい状況にある。なお、ブルームバーグの事前予想によれば、シシガン大学消費者マインドを 70.0、1 年後の期待インフレ率を 4.8%と見込んでいる。
- 本邦では 17(月)～18 日(火)に日銀金融政策決定会合が開催予定である。前回 12 月会合ではコロナ禍における資金繰り支援策の縮小を決定した。一方、金融機関に有利な条件で貸し出しの原資を供給する特別オペを半年間延長するとした。また、大規模な金融緩和策は現状維持となり、短期金利を▲0.1%、長期金利の指標になる 10 年物国債利回りを 0%程度に誘導する長短金利操作(イールドカーブ・コントロール)の維持を賛成多数で決め、資産購入に関する方針も維持されることとなった。
また、今回会合では「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」が更新予定。これに先行して今週日銀は地域経済報告(さくらレポート)を公表し、約 8 年ぶりに全地域において景況判断を引き上げた。加えて、足許での消費者物価指数や企業物価指数の騰勢を受けて見通しがそれぞれ上方修正されるとの見方が広がっている。一方、一連の指標は急拡大が進むオミクロン株の影響を織り込んでいない点もあり、日銀関係者は、感染拡大が個人消費の下振れ要因になり得る可能性を指摘している。政府は既に一部地域にまん延防止等重点措置の適用を決めているが、感染力が高いとされるオミクロン株に対し、昨年に続きゼロコロナ志向の強い防疫政策を継続すれば今後の景気回復の足枷になることも考えられる。

	本 邦	海 外
1 月 14 日(金)	・12 月国内企業物価指数	・ユーロ圏 11 月貿易収支 ・米 12 月小売売上高 ・米 12 月輸出/輸入物価指数 ・米 12 月鉱工業生産 ・米 1 月シシガン大学消費者マインド(速報)
17 日(月)	・11 月第三次産業活動指数 ・日銀金融政策決定会合(18 日まで)	
18 日(火)	・黒田日銀総裁会見 ・11 月鉱工業生産(確報)	・ユーロ圏 1 月 ZEW 景気期待指数 ・米 1 月 NY 連銀製造業景気指数
19 日(水)		・米 12 月住宅着工件数
20 日(木)	・12 月貿易収支	・ユーロ圏 12 月消費者物価指数(確報) ・ユーロ圏 ECB 政策理事会議事要旨(12 月会合分) ・米 12 月中古住宅販売件数
21 日(金)	・12 月全国 CPI	・ユーロ圏 1 月消費者信頼感指数

【当面の主要行事日程(2022 年 1 月～)】

日銀金融政策決定会合(1 月 17～18 日、3 月 17～18 日、4 月 27～28 日)
FOMC(1 月 25～26 日、3 月 15～16 日、5 月 3～4 日)
ECB 政策理事会(2 月 3 日、3 月 10 日、4 月 14 日)

市場営業部・金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報をお無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年1月13日	円安と物価高と国民感情の近況について
2022年1月12日	「嵐の前の静けさ」を警告するIMF
2022年1月11日	信じて貰えないECBのハト派姿勢
2022年1月7日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「正常化レースの進捗」≡「為替の進捗」～)
2022年1月5日	欺瞞を晒したEUの天然ガス・原子力グリーン認定
2022年1月4日	2022年、円安・ドル高シナリオの死角は「日銀の正常化」か？
2021年12月28日	2022年の為替概観②～「2つの正常化」と新興国～
2021年12月27日	2022年の為替概観～2つの「正常化」が作る世界観～
2021年12月24日	週末版
2021年12月23日	円相場の近況～5年ぶり値幅、最低の取引量、感染拡大～
2021年12月22日	無視はできない需給面のドル安リスク
2021年12月20日	2021年に浮上した「悪い円安」論を再考する
2021年12月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ラガルド・バズーカ」と利上げ見通し～)
2021年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年11月分)
	FOMCを受けて～今度はインフレが「一時的」であるリスク？～
2021年12月15日	「安い日本」を体現するアパレル生産日本回帰報道
2021年12月13日	41年ぶりの企業物価上昇～圧迫される企業収益～
2021年12月10日	週末版(いきなり外交的試験に直面するドイツ新政権～北京五輪という「踏み絵」～)
2021年12月8日	2022年も「日本回避」がテーマか～首相演説を受けて～
2021年12月7日	過去最大のインフレ率を前にECBはどう動くか
2021年12月6日	弱い雇用統計とFRBの正常化プロセスについて
2021年12月3日	週末版(FRBの政策運営をどう考えるか～本邦の正常化プロセスは23年以降に～)
2021年12月2日	変節し始めたECB～減らないPEPP、隠れる本音～
2021年11月29日	アフター・メルケル政権誕生へ～新連立の見どころ～
2021年11月26日	週末版
2021年11月25日	再び浮上する「合意なき離脱」リスク～6年目の混乱～
2021年11月24日	ドル/円、115円台突破を受けて～色濃い日本回避～
2021年11月22日	欧州の感染再拡大の影響をどう見るか？
2021年11月19日	週末版
2021年11月17日	10月貿易統計を受けて～補強される円安シナリオ～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年10月分)
2021年11月16日	不安視される米消費者心理の悪化
2021年11月15日	今年2度目のマイナス成長となった日本
2021年11月12日	週末版(本邦10月国内企業物価指数を受けて～可視化され始めた円安&資源高の怖さ～)
2021年11月11日	ドル/円相場、5年ぶりの値幅は大相場の前兆か？
2021年11月10日	欧米7～9月期GDPについて～大きすぎる日本との格差～
2021年11月9日	FOMCと米10月雇用統計を受けて～今後の見方～
2021年11月5日	週末版
2021年10月29日	週末版(ECB政策理事会を終えて～冷静なインフレ分析と盛り沢山の12月会合～)
2021年10月28日	2%を突破したユーロ圏のインフレ期待と利上げの今後
2021年10月26日	供給制約下の利上げは正当化されるのか？
2021年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～12月に向けた露払い～
2021年10月22日	週末版(ドイツメンバー、4度目の退場～バイトムン独連銀総裁の辞任報道を受けて～)
2021年10月20日	本邦9月貿易収支を受けて～需給も円売り材料に～
2021年10月19日	ドイツ連立政権発足へ前進～クリスマス前にも？～
2021年10月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年9月分)
	欧州委員会、初のグリーンボンド発行を受けて
2021年10月15日	週末版(IMF秋季世界経済見通し(WEO))を受けて～世界とは別次元の日本の悩み～)
2021年10月13日	円安に蝕まれる日本経済の現状
2021年10月12日	現実味を帯びるECB正常化、日銀にも好機
2021年10月11日	米9月雇用統計を受けて～既定路線の修正には至らず～
2021年10月8日	週末版(ECB政策理事会議事要旨(9月9日開催分))～争点は「PEPPの次」へ～)
2021年10月7日	インフレ高進を考える～「目先の生活」vs.「地球の気温」～
2021年10月5日	交易条件の悪化に蝕まれる日本経済
2021年10月4日	岸田政権に求められる「新規感染者主義からの脱却」
2021年10月1日	週末版
2021年9月30日	ドル/円の年初来高値更新と岸田新政権への期待
2021年9月28日	次期ドイツ政権が直面する課題②～域内再分配～
2021年9月27日	次期ドイツ政権が直面する課題①～対中関係～
2021年9月24日	週末版(FOMCを終えて～既定路線と化した「22～23年の利上げ」～)
2021年9月22日	恒大問題の現状整理～2つのポイントで理解する今後～
2021年9月21日	ドイツ総選挙直前プレビュー～政治空白は必至か～
2021年9月17日	週末版(実質実効為替相場(REER)の国際比較～過去1年で割安感が加速したのは円くらい～)
2021年9月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年8月分)
	日本株上昇をどう解釈すべきか～2つの理由の妥当性～
2021年9月14日	70年代前半まで落ち込む円の価値、その意味
2021年9月13日	接種率の米国超えも、漂流する「戦略なき経済」
2021年9月10日	週末版(ECB政策理事会を終えて～12月がPEPP終了判断の分かれ目に～)
2021年9月8日	米消費者心理と米国の所得・消費環境について
2021年9月7日	世界経済は「踊り場」も円相場シナリオは揺るがず
2021年9月6日	米8月雇用統計を受けて～当面の3つのシナリオ～
2021年9月3日	週末版(ユーロ圏の物価情勢と孤立する日本～日米欧の物価情勢格差も鮮明に～)
2021年9月1日	ECB政策理事会プレビュー～にわかに出口モード～
2021年8月30日	ジャクソンホール経済シンポジウム～市場は安堵の様相～
2021年8月27日	週末版(ECB議事要旨を受けて～新ガイダンスを巡って議論紛糾～)
2021年8月26日	混沌極めるドイツ総選挙～現実味帯びる「CDU/CSU」下野～
2021年8月24日	銅金レシオ急落はリスクオフ開始の合図か？
2021年8月23日	ECB政策理事会プレビュー～「静観が吉」しかない情勢～
2021年8月20日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～正常化プロセスは視界良好～)
2021年8月19日	迫るメルケル退場～欧州の未来を問う選挙～
2021年8月17日	本邦4～6月期GDPを受けて～完全復元は23年以降に～
2021年8月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年7月分)
	メインシナリオの障害～米消費者マインドの動揺～
2021年8月13日	週末版(「異形の経済」が修正されるドイツ～アフター・メルケル時代へ)
2021年8月11日	世界に範を示す英国の金融政策運営
2021年8月10日	米7月雇用統計～実現に近づくウォラー想定～
2021年8月6日	週末版
2021年8月3日	「雇用の最大化」に近づく米国経済
2021年8月2日	アフターコロナを捉えた米欧の4～6月期GDP